（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

玉名高等学校附属中学校　平成30年度学校評価表

１ 学校教育目標

＊県教育委員会の示す教育指導の重点を踏まえ、三校訓の具現化に努め、徳・体・知の調和のとれた全人　教育を目指す。
＊本校の積み上げてきた教育方針に基づき、教職員が一体となって、家庭・地域との連携のもと活力ある　学校づくりを目指す。
（平成30年度教育実践スローガン）　**夢実現・未来への挑戦　～ENTERPRISE～**

２ 本年度の重点目標

夢を描き、大きく未来を切り拓いていくために創意工夫する人間力あふれる次代のリーダーの育成
「徳」の育成：自己肯定感及び他との共生感覚を基盤とした実践力のある豊かな心を育てる。
「体」の育成：「知」や「徳」の土台となる健やかな体を自己管理できる力を育てる。
「知」の育成：中高6年間を通し、自己教育力及び教科間のバランスよい高質の学力を育てる。

【努力目標】
　附中生としての自覚を持たせ、教育活動を円滑に進めていきながら、中高6年間の教育内容を確立させ　るとともに、総合的な人間力を身につけさせて高校段階へ送る。
　　～各学年・発達段階に応じた、徳体知のバランス及び意欲をもつ生徒を育てる～

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策（主担当分掌）	評価	成果と課題
学校経営	教育課題の共有化	中高合同職員会議や運営委員会における情報の共有	中高合同職員会議や週1回の運営委員会での協議事項等を確実に周知し実践する。	職員会議決定事項や運営委員会の伝達事項を中学朝会で連絡し、さらに文書で回覧し、確実に周知する。（副校長・教務部）	A	朝の中学打ち合わせ等により、職員間の情報の共有を行った。文書で確実に回覧するなど、内容の周知を図った。
		中学校職員会議や分掌会議等における決定事項の周知・実践	定期的に中学校職員会議（週1回）を行い、その内容を確実に実践する。	中学校職員会議等の決定事項を文書等で回覧し周知する。（副校長・教務部）	B	中学校職員会議の定例化を行った。資料を事前に配付することで、議事の共通理解を深めた。各行事・取組の要項や生徒の状況など、会議内で共通理解ができた。
		職員研修の場や質の確保と実践化	より効果的なやり方を工夫しながら、定期的に職員研修を行う。	校内の問題の解決に向け、外部講師招聘等も行い、1学期にテーマを設定し、その後3回以上の研修を実施する。（校内研究部・教務部）	C	高校との合同の部分では、職員研修が実施できているが、中学校独自の職員研修はできていない。中学校に必要な研修について、計画的な取組が課題である。
	危機管理意識の高揚	早期発見・早期解決を意識した、実効性のある規範意識の確立	定期的、日常的な業務に、いわゆる報・連・相を確実に行い、未然防止を図る。	中学校職員会議を定例化し、業務内容の共通理解、いわゆるヒヤリハット等の共有化を図る。（副校長）	B	中学校職員会議を定例化し、各業務内容の共通理解は深まった。各取組の企画段階での相談や、起案後の確認等を徹底することで、規範意識の向上を図った。

		危機意識や展望をもった各案件への対応・処理	日頃、危機意識や展望を持ちながら安全管理対策を充実させる。生徒の活動状況等、校外への情報発信に努め、入学者選抜における倍率の向上を図る。	企画立案の段階から、危機管理意識を持ち、常に各事案の最悪の状態を想定しながら、先を見通した取組を行う。（生徒指導部） 各行事ごとに、ホームページへの記事の掲載、玉高附中通信の発行を行う。（副校長・情報管理部）	B	各取組に立案の段階から、危機管理の視点を持ち企画に努めた。生徒に関係する部分では、部室の利用方法の改善など、問題行動の未然防止に努めた。 各行事ごとに、全職員で計画的にホームページへ記事を掲載できた。玉高附中通信を発行し、校内外への情報の発信を行った。
	学校改革	生徒と向き合う時間の確保	校務の精選等により、職員の時間外勤務時間を縮減する。	衛生委員会を原則として月１回開催することとし、職員の時間外勤務の状況等の情報共有を行い、運営委員会等で校務改善等を検討する。 月に1回の定時退庁日の設定、その他1つ以上の時間外勤務縮減のための具体案を作成する。（副校長・保健主事）	C	月1回の衛生委員会で職員の時間外勤務の状況等の情報共有を行い、概要について職員へ周知し、時間外勤務の縮減へ向けて意識喚起に努めた。学校評価アンケートでは、昨年度より肯定感が下がっており、より具体的な改善策も打ち出せないでいる。今後も、大きな課題である。
学力向上	授業力の向上	年間指導計画や生徒の実態に応じた適切な教育課程の実施	年間指導計画を精査しながら生徒の実態に応じて適切に教育課程を編成する。	年間指導計画や生徒の実態に応じて、教育課程を円滑に実施する。高校教師による特別講義等を実施し、学問の面白さを知る機会の充実を図る。（教務部）	B	年間指導計画に基づき、生徒の状況に応じながら授業を進めることができた。高校の職員による特別講義（国語、社会、数学、理科）を行うことができ、生徒が直接、高校の授業内容に触れることができた。生徒の感想にある「高校の授業は難しそう」という部分に加えて、授業内容の面白さを伝えることができるよう、改善しながら継続して取り組みたい。
		積極的な授業公開や授業研究による授業力向上のための対策	授業評価において、生徒の授業満足度が昨年を上回る。	校内外への授業公開、校内外において授業研究を行う。（校内研究部）	A	中高合同での授業公開を行うことができた。学校評価アンケートでは、質の高い授業の実践については、生徒の肯定感が高く、今後も継続して取り組んでいきたい。

		学力向上施策の実	学力の実態を分析精査し、学力向上対策を行う。	各テストの分析を行い、具体的な対策案を提示し、学力向上対策を講じていく。（進路指導部・各教科）	B	各テスト分析を各教科で行い、共通理解を深めた。具体的な対策については、各教科で取り組んだ。今後、学力向上の基礎として、教科を超えて、学習習慣のある基本的な生活習慣の確立など、学年としての取組をさらに充実させたい。
		中高教科会での研鑽による教科指導力の向上	中高教科会における研究協力を通して授業力を向上させる。	中高合同の教科会を実施し、生徒理解を深め、教科指導における研鑽を深める。（各教科）	C	中高の教科会で生徒理解を深めながら検討した。授業内容や教科指導については、工夫改善する余地があり、今後も教科会の充実を図ることが課題である。
	個に応じた学習指導の工夫改善	宅習時間等の課題把握及び対策による家庭学習の充実	週16時間以上の家庭学習が確保できるように意識を高揚させる。	各担任と連携し、生徒個々の宅習時間の分析を行い、家庭学習の充実を図る。（教務部）	C	生徒の委員会活動（学習・文化委員会）で宅習時間調査を行い、意識の向上を図った。個人差が大きく、平均週16時間以上は達成できなかった。教務部としての分析等はできていない。
		少人数指導や習熟度別指導等の効果的な指導方法の工夫改善	英数等における少人数指導や総合的な学習の時間等におけるTT指導を充実させる。	学力に応じて少人数指導や習熟度別指導を有効に活用し、学力向上につないでいく。（教務部）	B	英語、数学において習熟度別授業を実施した。学校評価アンケートでは、生徒の肯定感も高く、成果が上がっている。肯定感の低い生徒への指導等についての工夫改善が課題である。
中高一貫教育 の推進	6年間を意識した中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育のシステムの構築	6年間の中高一貫教育を意識した教育システムを構築する。	各教科を中心に、中高一貫教育校としての特色ある教育活動を充実させる。中高6年間を3つのステージに分けて表現し、各取組の位置づけを見える化する。（進路指導部・教務部）	C	各教科毎に取り組んでいるが、中高の一貫性という点で、課題が多い。高校での取組を、中学生向けに分かりやすく説明できるよう改善が必要である。学校評価アンケートでは、職員の肯定感が5割を切っている。中高接続に関する検討を継続して取り組む必要がある。
		生徒や保護者へ中高一貫教育の趣旨の周知徹底	生徒や保護者へ6年間の教育内容に対する意識啓発を図り、全員が玉名高校へ進学する。	保護者会や各種通信等を活用しながら、6年間のスパンで教育指導を行うことへの理解を進める。（進路指導部・学年部）	A	模試分析を活用して生徒の学習意欲の向上を図ったり、将来の職業や大学の学部学科を考えさせたりすることで、高校での文理選択について中学生のうちから具体的に考えさせることができた。取組については、学年懇談会等で周知した。

キャリア教育の推進（進路指導）	6年間を見通した指導	中高一貫教育校の特色を生かした教育	知的好奇心を掻き立てる教育活動を展開する。	1年生では、最先端の技術や研究機関をもつ九州大学を訪問し、研究内容を実際に体感する。 2年生では、熊本大学にて本物の講義を受講する。 3年生では、APU（立命館アジア太平洋大学）で、異文化理解、語学力、コミュニケーション力向上を目指して、英語合宿研修を行う。（学年部）	A	計画に沿って実施し目的を達成することができた。 1年生は、大変興味を持って取り組むことができた。卒業生や講師の先生の確保が、今後の課題である。 2年生は、生き生きと大学での講義に参加していた。体験が教育学部に限定だったので改善の余地がある。 3年生では、生徒がとても意欲的に取り組み、貴重な経験を積むことができた。大学側の受け入れが難しくなりつつあるので他の方法も考えておく必要がある。 2年次修学旅行でも大学での講義を経験するので、3年間を通した取組の精査を行う必要がある。
			望ましい職業観の基礎を養うとともに、「生きる力」を育成する。	地元の事業所（施設）の協力を得て、2年生では職場体験、3年生では福祉体験をそれぞれ2日間行う。（学年部）	A	事前学習を十分に行い体験学習に取り組み、目的を達成することできた。事業所や施設からの評価もとても高かった。
			進路意識の高揚を図る取組を充実させる。	外部講師等を招聘し、全校生徒を対象に進路講演会やキャリア教育講演会を実施する。（進路指導部）	A	進路講演会等、計画どおり実施できた。年度当初、高校進路指導主事による講話を行い、将来の大学入試に向けた意識付けを行った。
	進路意識の高揚	学活や総学、集会等による進路意識の高揚	高校卒業後を見据えた生徒の進路意識の高揚のための啓発を行う。	学活や総学、集会等の指導を通して、日常の学習と進路との関係性を伝え、生徒の進路意識の高揚を図る。（進路指導部・学年部）	A	学年集会等で、模試分析等の話を基に説明した。中3と高2とのピアサポートを実施し、生徒同士交流しながら、文理選択を考える上で重要なアドバイスをいただいた。進路指導部と学年部で連携し、大学入試改革に向けた情報の収集と発信に努めた。英語では、将来の大学入試を見据え、GTECのSpeakingの導入を行うなど取組の充実を図った。

生徒指導の充実	基本的生活習慣の確立	様々な教育活動を通した健康的な生活リズムの確立	日常、教科、保健指導等を通して健康的な日常生活リズムを確立させる。	学活や集会、通信等を通して、健康の大切さを理解させ、健康的な生活リズムを確立させる。（生徒指導部・環境保健部・学年部）	B	毎日の健康観察を通して、健康状態の把握に努めた。生活のリズムの確立については継続した指導が必要である。スマホの影響による生活リズムの乱れには、今後の対応が必要である。
		挨拶指導及び整容指導の実施	服装・頭髪等の整容面における生活習慣を確立させる。	日常指導や定期的な整容検査、校門一礼の徹底等を通じて、生活習慣を確立させ、発達段階に応じた自立の育成を図る。（生徒指導部・学年部）	B	生徒全体での整容検査はよく取り組めた。校門一礼の意識は低くなっているので、徹底を図りたい。不要物の持ち込み等、生徒指導を必要とする状況がいくつか見られた。今後の継続した指導が必要である。
		交通安全意識の高揚及びマナー指導	登下校における自転車の安全な乗り方や公共交通機関でのマナー等を確立させる。	登校指導は生徒指導部で立案し、全職員で実施する。また、全校集会や日常指導、学級通信等を通じて交通マナーについて啓発する。（生徒指導部・学年部）	B	中高合同での登校指導は例年どおり行った。電車、バス通学生のマナー等に課題はあったが、概ね高い意識を持たせることができた。引き続き交通マナーの向上に努めたい。
	生徒会・部活動等の活性化	生徒会や委員会活動等を通した自治能力の育成	主体的に取り組む生徒会活動を確立させる。（月１回以上実施）	生徒会や委員会活動を通じて、主体的な自治活動を経験させ、自治意識を育成する。（生徒指導部）	A	年間計画に沿って、毎月専門委員会を実施することができた。各委員会の新たな取り組みを実践するなど自治能力の高まりが見られた。活動内容の精選が、新たな課題である。
		文武両道に則った効率のよい部活動の推進	文武両道に則った効率のよい、密度の濃い部活動を行う。	活動場所や時間等の制限がある中で、年間計画、月毎の計画を作成し、効率よく充実した部活動を進めていく。（生徒指導部・保健環境部）	B	各部活動ともに計画的に活動できた。放課後の練習時間の有効な使い方には工夫が必要である。
人権教育の推進	職員研修の充実による人権意識の高揚	人権感覚を磨く質の高い職員研修の実施	教職員の人権感覚を磨くための職員研修を充実させる。（中高合同及び独自実施）	職員研修等を通じて、職員同士で振り返りを行いながら、人権感覚を高め、磨いていく。また、年に2回以上研修会に参加する（人権教育部）	B	中高合同の校内研修に加えて、全職員が校外の研修に参加し、研鑽に努めた。中学校独自の研修は、実施できなかった。時間の確保等、今後の課題である。
	指導内容や方法の工夫改善	年間指導計画の精査及び子どもたちの実態に応じた人権学習の実施	年間指導計画を精査し、それに基づいた人権学習の質的に充実させる。	年間指導計画を精査しながら、実態に即した指導内容を考え、人権教育LHRを実施し、人権学習の充実を図る。（人権教育部）	B	各学年学期毎に人権学習を計画し、生徒の実態に応じた授業を実施することができた。

	「命を大切にする心」を育む指導の充実	自他の命を大切にしようとする姿勢の育成	関連するテーマの授業を設定し、「命を大切にする」という視点をもって日常的な指導を行う。	道徳の授業や人権教育を計画的に進めるとともに、人権･ボランティア委員会が企画する活動に全生徒が参加することにより、自他の命を大切にする心を育む。（人権教育部）	B	年2回の校内人権集会や県人権子ども集会へ参加し、人権や命の大切さを意識する姿勢を学んだ。日常生活の中で、人権について意識できるよう、さらに取り組みたい。
いじめの防止等	いじめ根絶と不登校ゼロの取組	日常指導等を通した、いじめ根絶のための意識高揚と不登校生徒や別室登校生徒への支援	全校生徒が安心して生活できる学校をつくる。 いじめや不登校生徒を出さないための体制作りや日常的な指導の在り方の工夫を行う。（いじめゼロを達成する）	心のアンケート、教育相談(面談)、日ごろの観察を通し、わずかな変化も捉え、事実の確認及び早急な対応に努め、人間関係のもつれや問題行動等を未然に防いでいく。 「心のきずなを深める月間」の取組で生徒が書いた人権作文や人権標語の紹介を行う。「いじめゼロ」宣言文の確認をし、全校生徒で読み上げる。（生徒指導部・人権教育部・生徒会）	B	いじめ防止の取組を整理・充実させて、いじめ防止等基本方針を改定した。 校内の心のアンケートを活用し、生徒の思いをくみ取ったり人間関係のトラブルに対応したりした。心のアンケートの設問については、生徒の思いを更に把握できるよう改善を進めたい。人権作文や人権標語は全校生徒で取り組むことができた。「いじめゼロ」宣言文の唱和はよくできているが、内容の理解を深める機会を設ける必要がある。
特別支援教育の推進	一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育体制の確立	様々な情報をもとにした特別な支援を要する生徒の把握及び適切な支援	特別な支援を要する生徒の把握と個別の支援計画等を策定する。	小学校や各種検査等の情報をはじめ校内での連絡を密にし、特別な支援を要する生徒を把握、支援計画等を策定するとともに、適切な支援を行う。（人権教育部）	B	個別の支援計画、指導計画ともに策定することができた。今後、診断はないが、支援を要する生徒たちへの支援をどう行うかが課題である。
		職員研修をもとにした特別支援教育の在り方についての研鑽	教職員の特別支援教育に関する研修を充実させる。（年１回以上）	中高合同の研修や校外研修を通して、個に応じた特別支援教育の在り方の研鑽を深める。（人権教育部）	B	中高での校内研修を行うことができた。また、合理的配慮協力員の助言も校内で活かすことができた。
環境教育の推進	学校版環境ISOの視点にたった環境教育の充実	研修を通した教職員の環境保全意識の高揚	生徒の環境保全意識を高めるための指導方法の工夫改善を行う。	中高合同による研修を通して、教職員の環境保全意識を醸成する。（保健環境部）	C	研修は実施できなかった。職員室や印刷室での掲示物により、環境保全意識の向上を図った。
		生徒会による環境ISO実践の充実	中高連携による学校版環境ISOの取組を推進する。	中高の生徒会活動等を通して、生徒の意識を高め、学校版環境ISOの取組を推進する。（保健環境部）	A	美化委員会で美化チェックを行った。また、コンタクトレンズのケースを集めるなど生徒の発案による取組もあり充実した活動となった。

安全管理	健康で安全な学校生活のための意識高揚と校内体制の確立	日常指導や学活等を通した生徒の健康・安全意識の高揚	食育や性教育の充実をはじめ健康診断等の活用による生徒の健康増進のための取組を充実させる。	日常指導及び学活、保健委員会の活動等を通して健康で安全な生活を意識した生徒の育成を図る。（保健環境部）	B	日頃から教室の整理整頓に努め、安全点検を実施し安全な環境作りに努めた。昼食時には昼食指導を行い、食に対する意識を深める機会とした。保健便りの発行や性教育講話（2・3年生）を通して、生徒自身が、自分の健康や生活の安全を考えさせることができた。
情報教育の充実	情報の正しい活用と意識の高揚	生徒の情報管理や情報モラルに関する意識の高揚	情報の正しい利活用のためのノウハウの習得及び情報モラル意識を育成する。	各種の研修を踏まえ、生徒の実態に応じて情報管理や情報モラルに関する意識を高める。また、保護者会等で保護者向けの講演会を実施し、情報の提供と意識の高揚を図る。（情報管理部）	B	中1および中2の学年懇談会で、保護者へスマホの持たせ方をテーマに話を行った。中3の授業では、インターネット依存、スマホ依存に関する情報モラル教育を行った。 今後、ネット環境を踏まえ、スマホ依存などについて、計画的で保護者と連携した情報教育が課題である。
読書指導の充実	読書による学力と豊かな心の育成	よりよい読書活動を通した学力と豊かな心の育成	学校図書館や良書推薦を通して読書を推進していく。学校図書館利用に関しては年間一人当たり50冊以上とする。	図書委員会を中心に「読書祭り」と称し、「帯コンテスト」などの様々な企画を実施することで、読書に親しむことを意識させながら、学力と豊かな心の育成につなげる。（図書部）	B	具体的な方策は概ね実施できた。年間一人当たり50冊以上は達成が難しく、何らかの工夫が必要である。 中学生の知的好奇心を刺激し、スマホ依存等の対策にもなり、将来役に立ったと実感できるよう、読書の持つ可能性を更に求めたい。
保護者・地域との連携	保護者や育友会組織との連携	各種便りや授業参観等を通した保護者との連携と協力体制の確立	学級便り（週1回程度）や授業参観（年3回）等の情報提供による保護者との連携協力を充実させる。	各種便りや授業参観等を通して、確実に保護者等への情報を提供していくことで、連携協力体制を固めていく。（副校長・学年部）	A	各学期に一度の授業参観・学年懇談会や毎週発行している学級通信等を通して、情報の提供を行った。玉高附中通信を作成し、各行事における生徒の感想を提供した。
		中高の職員と育友会役員とが連携し合う円滑な育友会組織の運営	中高連携による育友会組織の確立と取組を充実させる。	中高連携の育友会活動を職員と育友会役員との連携のもとで充実させる。（副校長・総務部）	A	中高合同の部会を開催し連携を図ることができた。育友会と連携し充実した行事に取り組んだ。
	地域への貢献を意識した取組の確立	様々な教育活動の中で、地域社会に役立つような奉仕活動等の検討と実施	生徒の学習活動における地域への奉仕活動等の取組を充実させる。（年1回以上）	総合的な学習の時間や学活、学校行事等に、地域社会に貢献する活動を取り込んでいく。（学年部）	B	中3では、福祉体験を通して交流を行い地域に貢献した。
		故郷について知り、故郷について考え、故郷を愛することに繋がる取組の増加	生徒の学習活動における故郷をテーマとした活動を取り入れる。	総合的な学習の時間や学活、学校行事（文化祭）等に、故郷に関する活動を取り込んでいく。（学年部）	B	中3では、学芸発表会や若駒祭(文化祭)で金栗四三の劇に取り組み好評を得た。

地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	安全な学校づくりの推進	緊急事態対応の徹底	防災型コミュニティ･スクールとして、活動内容の検討を行う。	学校運営協議会で検討し、防災主任（高校）を中心に総務部で災害時の連携･対応マニュアルを作成する。（総務部）	C	防災主任を中心に、災害時の連携・対応マニュアルの作成を進めた。中学生に応じた対応等、今後も検討し完成度を高めることが課題である。
			避難経路の確認と避難訓練を実施する（年2回）。	総務部が立案し、学校全体で取り組む。（総務部）	B	4月に避難経路を確認し、常時教室掲示を行っている。避難訓練の際に、適切に避難できた。

4　学校関係者評価

　学校評価に関するアンケート（職員、生徒、保護者）を実施し、分析等を行い、平成31年（2019年）2月12日の学校評議員会及び学校関係者評価委員会において、意見や助言をいただいた。全体として、本校への期待が大きく、高い評価を得た。意見・感想等については次のとおりである。

◇今回の分析結果についての感想
・丁寧な分析がなされていると思いました。なかなか解決が難しい内容項目もありますが、一人で抱え込まない日頃の人間関係づくり、問題行動の防止が必要だと思いました。
・保護者の評価が生徒の評価と同じにならないのが不思議です。連休が多いのに、生徒に向き合える時間を作るのは、先生方大変だと思います。健康面にはくれぐれもお気をつけください。
・詳しく分析し、具体的に学校の状況を知ることができました。それを元にして、学校の全体像（総体的視点）を持つことも大切だと思います。
・多くの項目でアンケート分析・解析ありがとうございました。色分けしてあり、とても見やすかったです。
・職員、生徒、保護者との温度差を感じる項目がいくつかあり、気になりました。
・附中、全日、定時ともにマンパワー不足を感じる中、献身的に取り組んであります。「働き方改革」の中で、保護者としても学校理解（応援）をしていきたいと思います。もう少し自己評価を高くしていただいてもいいと思います。
・いじめの対策を具体的に考察いただきたいと思います。

◇日頃の本校教育活動全般を見聞きしての気づき
・レベルが高く、活動範囲がとても広いと思いました。それだけ、生徒にとってはよい刺激となっていると思います。
・先生方の多忙感の軽減に周辺が協力できることがあればと思います。全日、附中、定時と3つの学校の総合力をいかした学校づくりを期待します。
・きれいに整備されて。また、伝統を伝えた行事も行われていて、よいと思います。
・先生方の体調が心配なくらい、頑張られているなあと感じています。
・大変時間を使い、学力向上にお世話いただいていると感じます。

5　総合評価

　1期生、2期生が玉名高校を経て、大学進学等を果たし、玉名高校附属中学校へは8期生が入学している。今年度は、一つ一つの取組の中で、中学校の3年間及び高校の6年間での位置づけについて、常に考えながら、中高の連携を行いながら、各取組の改善等に努めてきた。
　質の高い授業や個に応じた学習指導等の学習面では、高い評価を得ることができた。中高合同の行事等でも、中学生の果たす役割を十分に果たし、中学校独自の生徒会活動や委員会活動にも高い評価を得ることができた。
　1期生以来、実施してきた様々な取組を精選し、整えていくことで、本校の特色ある教育活動の充実を図っており、地域及び保護者の方々にも、その方向性に一定の理解を得つつある。
　学校生活における生徒の不安感等の把握・理解やいじめの未然防止等の対策、職員の負担感の軽減、業務の精選・削減等については、課題が多いが前向きに取り組んでいることに評価いただいた。

6　次年度への課題・改善方策

今後、生徒一人一人の夢実現のために、中学生の知的好奇心を学問領域に触れるほどに喚起させ、将来のキャリア構築の一助となるよう、中学校でできる“種まき”となる授業や探究、その他の行事等に充実を図りたい。

（1）今までの取組を整えることで、学校評価アンケートにおける①質の高い授業（肯定感、生徒89%）、②個に応じた学習指導の工夫改善（肯定感、生徒69.7%）について、高い肯定感を維持する。多様な取組を通して、生徒の興味関心の幅を広げ、主体的な学びの種まきを図る。ストレスマネジメント等に取り組み、自律（立）できる生徒を育成する。

（2）中高接続に関する会議を継続して、中高6年間を見通した取組の見える化、魅力化を図り、生徒の活躍を情報発信しながら、生徒募集等に取り組む。

（3）次年度のおもな改善案、取組等

ア　生徒に関する取組

・防災教育（修学旅行での「人と防災未来センター（神戸）」訪問、避難所食体験）

・ストレスマネジメント（全学年）、ソーシャルスキルトレーニング（中2）

・ライフスタイル教育プログラム（南九州大：渡邉先生との連携）

イ　行事等・職員研修（時間の確保を含めて）

・人権学習日の設定（県人権子ども集会当日）

ウ　職員に関する取組

・業務の精選　・定時退庁日の設定と徹底

エ　情報の発信　・HPの充実　・学校通信の継続した発行　・学校説明会の改善